

お宅訪問隊

～住み慣れた 私たちの街で・・・～

4月から2カ月に1回のペースで、お宅訪問隊と題して、かしま病院の「お宅サービス」を紹介します。かしま病院は、医師の診察・入院での治療・入院中のリハビリ・健康診断・人間ドック・透析治療を行う、患者さんに近い地域のための病院です。そのほかに、患者さんの生活の場へ訪問し、退院後の支援や自宅療養の支援、リハビリ、日常生活の支援などを行う、通称かしま「お宅サービス」があります。

6つのかしま「お宅サービス」

訪問サービス	お宅や入居している施設へ訪問し、必要な医療や介護サービスを行う <ul style="list-style-type: none"> 在宅訪問診療 訪問看護ステーション 訪問リハビリ 訪問介護
通所サービス	お宅から定期的に病院に通い、必要なりハビリサービスを行う <ul style="list-style-type: none"> 通所リハビリ
ケアマネジャー	介護を必要とする方に、医療介護などのサービス調整を行う <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援

この「お宅サービス」は、自分や家族が、医療や介護が必要になった際に関わるサービスです。日本は、少子高齢化が進み、働く世代が減少しています。今後、国の制度が変わると共に、「お宅サービス」の必要性は年々増して来ることが予想されます。

私たちは「お宅サービス」の広報を通して、医師・看護師・リハビリ専門職・介護士・ケアマネジャーなどから受けられる支援を分かり易く伝えていきたいと思っています。

まずは、かしま病院が提供している「お宅サービス」を、少しでも知ってもらえると嬉しいです。

次回から、下記スケジュールで掲載を予定しています。ぜひ読んでみてください。気になることや質問・相談などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。どんなことでも構いませんので、お待ちしております。

かしま病院 事務部 大平佳央

掲載予定

- 6月：居宅介護支援
- 8月：訪問看護
- 10月：訪問介護
- 12月：訪問診療
- 2月：通所リハビリ

呼吸器診療の危機

肺がんに関する、2つの市民公開講座

浜通りの医療の中核、いわき市立総合磐城共立病院は、今年の12月25日に生まれ変わって、「いわき市医療センター」になるそうです。今まではペールに包まれていた新病棟の外観が、道路から眺められるようになりました。

地域がん拠点病院として、がん診療に関する市民公開講座を定期的に開催されています。第8回目の講座が「肺がんの危険因子。COPDって知っていますか？」というテーマで3月18日



ひんがら目(130)

講演内容は、柴田教授の専門分野であるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)についてでした。前任の山形大学で高島町民3000人を長期に亘って追跡し、1日20本以上の喫煙を30年以上続けている重喫煙者の方の半数はCOPDを発症することを確認されました。COPDは知らず知らずのうちに罹患していることがあるので、質問票でチェックしてCOPDが疑われる人は呼吸機能検査を受けること。禁煙をし、軽症の段階から運動をし、吸入療法を行い、感染予防に肺炎球菌やインフルエンザのワクチンを積極的に受けること、などが大切とのことでした。

講演の後の質疑応答の中で、いわき市の呼吸器科医不足に関心が集まりました。今回の講演会を企画された関係者の狙いも、それを解決させるために大学からの支援を仰ぐことにありました。共立病院では、1年前から常勤の呼吸器科医が欠員となり、結核菌排除患者さんはいわき市外の施設への入院を余儀なくされています。高齢者はいくつかの病気を抱えていることが多く、高度先進医療を担うべき共立病院では一診療科の欠陥は全科に影響を及ぼします。新病院に衣替えする際には欠損科の無いことが最低限の願いです。今回の講演は直接

には肺がんの話ではありませんでしたが、主催者によりますと、例年のがんの市民公開講座よりは参加者が多く、市民の関心の高さを感じたそうです。

共立病院とは別に、いわき市医師会でも毎年、市民公開講座を行っています。「肺がん」のテーマでも5年ごとに開催してきました。今年も、4月14日(土)午後2時より、いわき市文化センターで第56回市民公開講座が開催されます。目覚しく進歩している肺がん診療の現状、肺がん検診の現状と勤め、いわき市が抱える呼吸器診療の危機、について考えてみたいと思います。

共立病院に勤務経験のある東北医科薬科大学第二外科の田畑俊治教授に特別講演をお願いしました。愚生も、いわき市医師会の肺がん対策委員長として短い発表をします。関心のある方は是非、参加してください。また、ご意見を聞かせてください。

(呼吸器科 部長 山根 喜男)